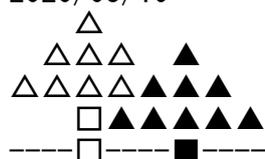


2020/03/19

林業試験場メールマガジン



『北の森の達人』

Vol. 61 第61号

読者の皆様へ

いつも林業試験場メールマガジン『北の森の達人』をお読みいただき、ありがとうございます。今回のメールマガジンは刊行物発行のご案内と林業試験場からのお知らせです。

■「光珠内季報」の第194号を発行しました。

当該ホームページ「刊行物」のページ

<http://www.hro.or.jp/list/forest/research/fri/about/kanko.htm>

よりご覧いただきますようお願いいたします。

光珠内季報 第194号 (2020.3発行)

- 1 続・小型自走式刈り払い機は林地でどこまで使えるのか？
－「山もっとジョージ」の誕生

根株粉碎作業が可能な造林作業機械が開発されました。そこで、本機械の根株粉碎効率および下刈り作業効率について実証試験を実施しました。その結果、カラマツ根株を平均90秒ほどで粉碎可能であることや根株粉碎作業を行いながらの下刈り作業では肩掛け式刈り払い機による一般的な下刈り作業にわずかに及ばないことがわかりました。

- 2 高精度位置情報の取得
－低価格2周波GNSS受信機の可能性－

近年、低価格な2周波GNSSの登場により、林業現場でも低コストに高精度な位置情報を取得できることが期待されています。高精度な位置情報は先端技術を用いた森林管理の省力化には重要な要素です。今回は、低価格2周波GNSSを使用した精度検証と使用事例について報告を行います。

- 3 北海道の防風保安林に息づく絶滅のおそれのある野生動植物
－生息環境と防風林管理の関係－

私たちが北海道の防風林において発見した絶滅危惧種ヤチカンバと国内希少野生動物種アサマジミ北海道亜種について、防風林がヤチカンバのレフュージア（生態学的な避難場所）として機能している例と、防風林の管理が副次的にアサマジミ北海道亜種の生息環境の維持にも貢献している例を紹介します。

- 4 シラカンバの工芸用樹皮の採取適期と剥皮の影響

美唄市においてシラカンバ樹皮工芸に使用可能な外樹皮の採取適期を調査した結果、6月下旬～8月上旬に品質のよい樹皮が採取できることがわかりました。美深町の民有

林を対象として調査した結果、外樹皮を採取した個体はすぐに枯死しないが、剥皮後2年経つと外見上問題がなくても材が変色する可能性があることがわかりました。

//////////

■お知らせ

林業試験場（北海道立総合研究機構）フェイスブックはじめました！！

林業試験場の情報をホームページだけではなく、SNSでも発信していこう！と林業試験場Facebookを2020年3月に開設しました。

林業試験場での取組やイベント情報はもちろん、HPには掲載しないちょっとした情報などもリアルタイムで発信予定です。

みなさま、ぜひご覧ください。

林業試験場（北海道立総合研究機構）Facebook

<https://www.facebook.com/ringyoshi/>

//////////

林業試験場メールマガジン『北の森の達人』は、北海道の森林・林業・身近なみどりに関わる情報を皆様に直接お届けするメールマガジンです。

■発行・編集

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 森林研究本部林業試験場
〒079-0198 北海道美唄市光珠内町東山

■問い合わせ

企画調整部普及グループ
電子メール forestry-mmj@hro.or.jp

■記事の取り扱い

林業試験場メールマガジンに掲載された記事を転載することはご遠慮ください。

//////////